回数は尽きても、願いは尽きない

不妊治療の保険適用の回数制限見直しを含め、治療を望む人の選択肢を広げてください

不妊治療を望む人が、制度上の制限によって選択肢を閉ざされない社会へ。
患者、医学界、企業など、多様な立場の人々が共に考え、社会で支える仕組みを目指します。

国に届けたい2つの声

1 保険で受けられる不妊治療（胚移植）の回数を増やしてください

2 子どもを望む人の選択を支える、医療保険制度と社会環境を整えてください

“保険で治療できるのはあと1回。妊娠にいたらなければ、原則自己負担で治療を続けるか、断念するか。”

2022 年の保険適用開始により、不妊治療に伴う患者の経済的負担は一定程度軽減されました。しかし、保険適用には要件があり、経済的な負担や制度上の制約が、治療継続の判断に影響する場合があります。例えば、体外受精・顕微授精において保険適用となる胚移植は、治療開始時の女性の年齢が40歳未満の場合は1子につき6回まで、40歳以上43歳未満の場合は1子につき3回までとされています。その後の治療は原則として全額自己負担となり、費用の壁によって治療を続けたくても諦めざるを得ない人がいます。また、回数に上限があることで、当事者は「あと何回」を数えながら治療に臨み、続けるかどうかの判断も、制度上の回数と経済的な事情に左右されています。

署名にご協力ください

オンラインか紙のどちらか一方にご記入ください。二重記入はできません。

オンライン
署名はこちら

このチラシの
裏面でも署名できます

国に届けたい2つの声

1 保険で受けられる不妊治療（胚移植）の回数を増やしてください

2 子どもを望む人の選択を支える、医療保険制度と社会環境を整えてください

この声を皆様の署名と共に届けたいと思います。是非ご協力ください!

国立社会保障・人口問題研究所の調査によると、不妊治療・検査は日本で約4.4組に1組の夫婦が経験している、実は身近な治療です。不妊治療を経験した方も、これから治療を考える方も、応援したいという方も、ぜひ署名にご賛同をお願いします。皆さんの一筆が、子どもを望む人の自分らしい選択を叶える社会につながります。

署名はこちら

オンラインか紙のどちらか一方にご記入ください。二重記入はできません。

オンライン署名はこちら

No.	ご氏名	ご住所(番地不要)
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

※ご記入いただいた個人情報は、本署名運動の目的以外に使用しません。

署名のお送り先・お問合せ

2027年1月15日までに届くようお送りください。

〒102-0083
東京都千代田区麹町2-5-1 半蔵門PREX South 8F
社会で支える不妊治療共創会議 事務局（マカイラ株式会社内）
exg_fertility-kyousou-kaigi@makairaworld.com

社会で支える不妊治療共創会議とは

子どもを望むすべての人を社会全体で支える仕組みづくりを目的に、2026年3月16日に発足しました。当事者団体・生殖医療専門家・産業界が協働し、不妊治療を持続可能な形で支える制度や社会環境の整備に取り組んでいます。
https://www.fertilitykyousoukaigi.jp/